

令和6年度指定管理者評価シート

1 管理運営の状況等

(1)施設名	与野本町老人憩いの家														
(2)施設概要	①所在地 さいたま市中央区本町東5-17-25 ②施設の設置目的 地域の高齢者に対し、教養の向上、レクリエーション等のための憩いの場を供与し、心身の健康の増進を図る。 ③施設の概要 開設年月 平成9年9月 構 造 鉄筋コンクリート造 2階建(与野本町児童センター)の一部 主な施設 和室、ラウンジ														
(3)指定管理者	社会福祉法人さいたま市社会福祉事業団														
(4)指定期間、指定管理料	①指定期間 令和6年4月1日～令和11年3月31日 ②指定管理料(直近3か年) 令和4年度 329千円 令和5年度 329千円 令和6年度 191千円														
(5)施設の管理運営の内容	①運営業務の状況(利用状況含む) ◇利用状況 ・利用者数 2,425人(前年度1,493人) ◇業務実施状況 「シニア世代の生きがいやりがいを応援し、地域の中で笑顔でつながり活躍できる老人憩いの家」を目指し、利用の促進を行った。地域包括支援センターとの情報交換を適宜行い、高齢者の孤立や介護予防の為のサロン活動「よりみちサロンなごみ」の団体利用のスタートや、中央区高齢介護課とも連携をし、令和7年度より「ますます元気教室」の実施協力を行うこととした。 ②維持管理業務の状況 業者による定期的な施設設備の点検、職員による安全点検、清掃、小破修繕を実施し、利用者の安全確保に努めた。 ③その他の業務 世代間交流「紙芝居とかるた」、避難訓練、花植え等を実施した。														
(6)収支状況	①収入 <table> <tr> <td>・ 指定管理料</td> <td>191千円 (前年度329千円)</td> </tr> <tr> <td>・ その他</td> <td>1千円 (前年度 0円)</td> </tr> <tr> <td>・ 前期末支払資金残高取崩</td> <td>56千円 (前年度603千円)</td> </tr> </table> ②支出 <table> <tr> <td>・ 事業費</td> <td>103千円 (前年度 91千円)</td> </tr> <tr> <td>・ 事務費</td> <td>84千円 (前年度155千円)</td> </tr> <tr> <td>・ 施設管理費</td> <td>61千円 (前年度 0円)</td> </tr> <tr> <td>・ 繰入金支出</td> <td>0千円 (前年度625千円)</td> </tr> </table>	・ 指定管理料	191千円 (前年度329千円)	・ その他	1千円 (前年度 0円)	・ 前期末支払資金残高取崩	56千円 (前年度603千円)	・ 事業費	103千円 (前年度 91千円)	・ 事務費	84千円 (前年度155千円)	・ 施設管理費	61千円 (前年度 0円)	・ 繰入金支出	0千円 (前年度625千円)
・ 指定管理料	191千円 (前年度329千円)														
・ その他	1千円 (前年度 0円)														
・ 前期末支払資金残高取崩	56千円 (前年度603千円)														
・ 事業費	103千円 (前年度 91千円)														
・ 事務費	84千円 (前年度155千円)														
・ 施設管理費	61千円 (前年度 0円)														
・ 繰入金支出	0千円 (前年度625千円)														

(7)利用者アンケート等による 市民からの意見・要望等への対応	法人全体としては、さいたま市社会福祉事業団「みなさまの声」設置要項による投書箱の設置、サービス向上担当者会議による「福祉サービス利用者アンケート」の実施等によりご利用者からのご意見・ご要望を受付ける機会を設けた。 施設としては、『下駄箱に番号をつけた方が良いと感じた。』とのご意見をいただき、当日のうちに下駄箱に番号シールを貼った。この対応により、後日、利用者より助かりますとのお声をいただいた。 また、『いつも親切に接して頂いている。』『いつもきれいにしてくださるとても快適に利用させていただいている。』『職員にとっても丁寧に接していただき有難い。』『子ども達の声も聞こえて元気が出る』等のお言葉をいただいている。
(8)その他	玄関に丸椅子を置き、ひと休みしたり、靴を脱ぎ履きする際に転倒などをしないようにした。

2 提案内容の達成状況

(指定管理者から提案のあった項目の達成状況)

提案内容	達成状況
介護予防と健康づくりの促進をします。	保健師による健康講話を実施し、フレイルやロコモの話をしていただいた。実際にストレッチをしながら行うことで、他団体、利用者同志の交流にもなり、好評であった。
生きがいづくりの支援をします。	紙芝居や絵本の読み聞かせなどのボランティア団体に活動の場を提供し、こども達にお話の世界を広め活躍していただいた。 近隣の住民の方と職員がコミュニケーションを取りながら、施設内の樹木、花壇の手入れ、草むしり等を実施し、良好な関係づくりをした。 利用団体が気持ち良く活動できるよう、話しやすい雰囲気作りと声掛けを心掛け、利用促進を行った。
支え合う活力あるまちづくりの推進をします。	認知症サポーター研修を受講し、地域の施設として高齢者に関する知識を深めた。また、地域包括支援センターと連携している利用団体の健康体操に参加し、活動内容や利用者について理解を深めることができた。さらに、来年度より地域包括支援センターによる定期的なサロン活動や、区の高齢介護課によるますます元気体操を実施する事とし、今後も地域の施設として利用促進をしていく。
児童とのふれあいの場、高齢者が活躍できる場の提供をします。	紙芝居や、絵本の読み聞かせのボランティアグループの活動を支援し、幼児親子や児童との交流の場を設けた。今年度は、新たに『紙芝居+かるたあそび』なども行い、楽しい時間を過ごした。

3 評価

(1)指定管理者による評価

今年度は、前年度に比べかなり利用者数が増加した。新規の団体が増えた事、地域包括支援センターと連携している健康体操の団体の利用人数が増えた事によるものと考えられる。また、地域の高齢者の状況を把握している中央区の高齢介護課や地域包括支援センターの事業について、令和7年度以降の施設活用の推進をした事で来年度以降の更なる利用増加が見込まれている。なお、高齢介護課の所管事業の『ますます元気教室』、地域包括支援センターの所管事業の『サロン活動』を当施設で実施予定である。さらにサロン活動では、児童センターを利用する0歳児と保護者との世代間交流などの事業の実施も検討している。令和7年度も引き続き、高齢介護課、地域包括支援センターとの連携を深め、地域の施設として活用していただけるよう取り組んでいく。
--

(2)さいたま市の評価(評価担当課:福祉局長寿応援部高齢福祉課)

総合評価(B)※A~D

(1)「市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進」に対する評価

・施設の特性を生かした世代間交流の実施や、関係機関と連携した事業の実施等、市民サービスの向上に努め、利用者数の増加に繋げた点を評価した。

(2)「経費の削減」に対する評価

・計画的かつ効率的な執行を図り、経費の節減に努めた点を評価した。

(3)「適正な管理運営の確保」に対する評価

・利用者からの声への早急な対応や、転倒防止等のための椅子の設置等、利用者が安心して利用できるよう取り組んでいる点を評価した。

2 総合評価

事業計画に沿って、適正に施設運営が行われている。

(3)来年度の管理運営に対する指導事項等

引き続き適切な管理運営に努めて下さい。